

終戦80年

戦跡記念碑をたどる-1



パシル・パンジャン攻防戦

BATTLE AT PASIR PANJANG COMMANDOS

2025年10月1日 史蹟史料部

戦跡記念碑 No.9 パシル・パンジャン攻防戦

BATTLE AT PASIR PANJANG COMMANDOS

設置場所 : Kent Ridge Park Carpark B, Vigilante

第1回目は、陥落前の最後の戦いの場所となったパシル・パンジャンの記念碑をご紹介します。



ケントリッジパークに建立された戦跡記念碑

パシル・パンジャンでの戦いは、港と英軍の貯蔵庫を手に入れるための最後の戦いとなり、1942年2月12日から14日まで続きました。

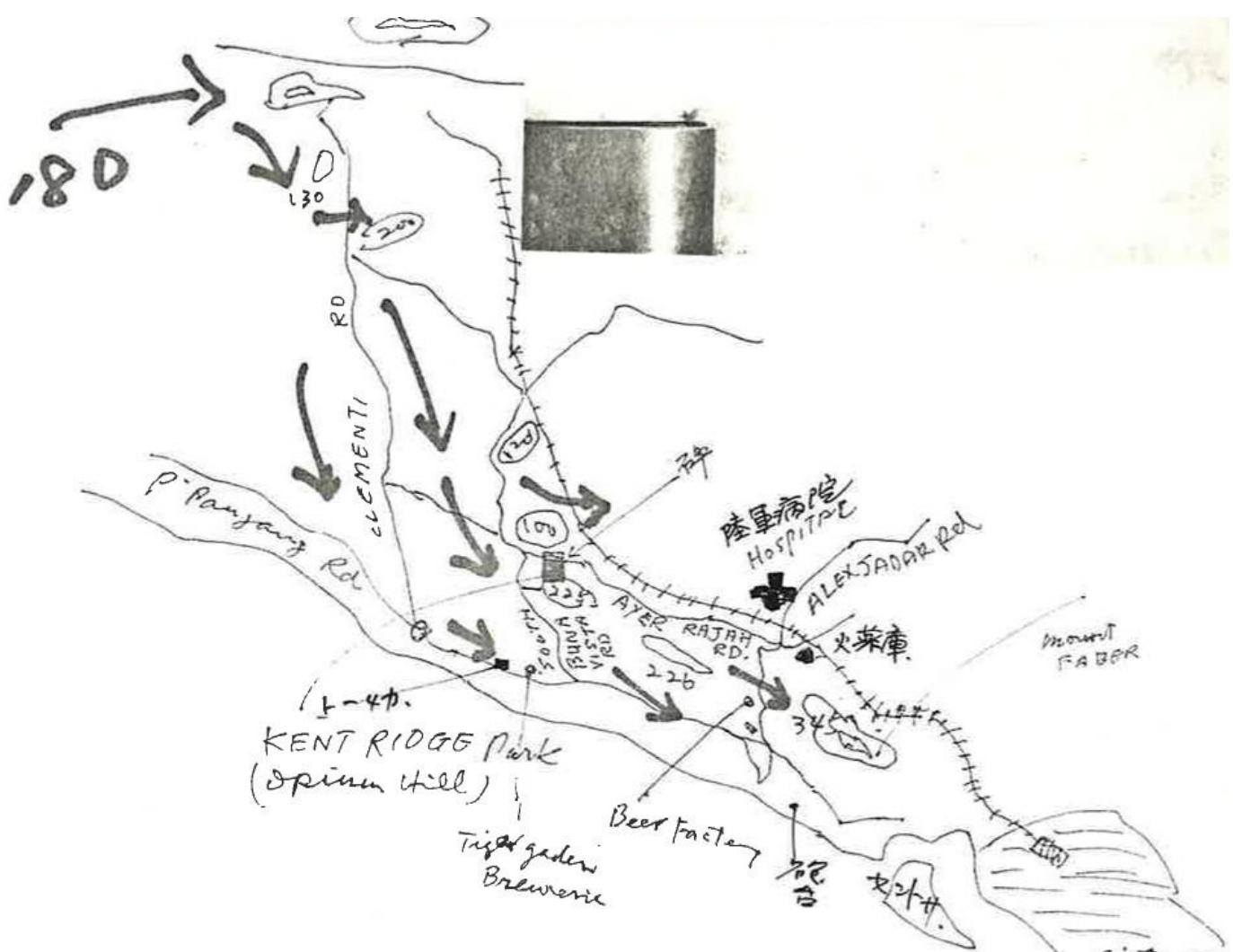
1942年2月中旬、アドナン中尉が率いるマレー連隊と日本軍2部隊との激しい2日間の戦闘がここで行われました。これはシンガポールをめぐる最後の戦いの一つであり、マレー連隊は兵力が最後の数人になるまで、この稜線を守り続けました。

戦闘はパシル・パンジャン稜線で行われ、マレー連隊第1大隊と第2大隊によって日本軍に対する48時間の壮絶な抵抗が繰り広げられました。

第7小隊のアドナン少尉が示したような模範的な行動と指導力に駆り立てられた兵士たちの勇気が、第1・第2大隊マレー連隊、英國第2忠誠連隊、オーストラリアのベンガル運搬兵、第44インド旅団の兵士たちの決意を固め、最後まで戦い抜かせました。弾薬が足りなくなると、兵士たちは日本軍と白兵戦（剣刀・槍での接近戦）を繰り広げました。

マレー連隊は兵力がほとんど尽きるまで稜線を守り続け、生き残った兵士たちは驚異的な闘志を発揮しました。日本軍に追われ、燃えさかる油の排水溝に遭遇したとき、彼らは降伏するよりも炎に耐えることを選びました。残念ながら、疲れ果てた4人の兵士は燃えさかる排水溝のそばで、2人は生きたまま焼かれました。パシル・パンジャン稜線の最後の守備兵の一人であったアドナン少尉は捕らえられ、銃剣で打ち殺されました。

今日、ケント・リッジ・パークは、勇敢な防衛隊員の勇気と犠牲の証として、シンガポール防衛のシンボルとして建っています。（出典：ナショナルヘリテージボード）



佐々木賢一さん手書きの地図



ケント・リッジ・パークから見渡せるパシル・パンジャンの港の風景



ブキ・チャンドゥ回想館

ケント・リッジ・パークの近くには、パシル・パンジャンでの戦いに散ったマレー連隊の展示したブキ・チャンドゥ回想館があります。2階には、アヘン加工工場としての歴史や近隣地域に点在していたパイナップル農園など、戦争以前のもっと平和だった時代のブキ・チャンドゥとその周辺の歴史を伝えるギャラリーがあります。

文責：史蹟史料部 両頭真衣